



## 国立女性教育会館のワークショップに参加

今夏、武蔵嵐山にある国立女性教育会館(ヌエック)で行われた[男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム]に、「エセナおおた」から2つのワークショップが参加しました。どちらのワークショップも用意した資料がなくなるほどの大盛況でした。資料を入手できなかった参加者からは、「あとで送ってほしい」という希望が多く出されて、反響の大きさに驚きました。

\* 8月29日(日)13:00~15:00

講座企画者必見「行列のできる講座企画の作り方  
~人を呼び込む企画とは~」



8月29日のワークショップ風景

昨年度に比べ、今年4月からの講座のすべてが定員を大幅に上回る応募者があったことから、昨年度から今年度にかけて工夫したことをもとに、他地域の参加者の経験を聞く中から今後の活動にいかせるものを探りたいと、ワークショップを企画しました。結果はどこ地域も「どうやって人を集めるか?」で悩んでおり、「とても参考になった」という意見が数

多く寄せられました。「区民だけで企画運営している大田区」への関心が高く、「よくボランティアでこれだけのものができる」と感心され、「3日間のワークショップで一番よかった」と感想を述べて帰られた方もいました。

\* 8月28日(土)13:00~15:00

協働で実現! センターの管理運営が市民の手に  
~23区初、東京都大田区立男女平等推進センターの  
指定管理者制度導入の事例発表~



昨年9月、地方自治法の改正に伴い、NPOや企業が公的な施設の管理を請け負うことができる「指定管理者制度」が施行されました。「特定非営利活動法人男女共同参画おおた」が「エセナおおた」の指定管理者となって4ヵ月を経過しました。指定管理者となった経緯と管理代行の中で見えてきたことなど、ヌエックに集まった全国の参加者とともに考えようと、ワークショップを開きました。

参加者は、行政関係・女性団体関係・個人など合わせて80名を超え、質問が跡を絶たない状況でした。行政関係者の多くは、指定管理者制度の導入によって、誰にどのような方法で施設の管理を任せたらいいのかを迷っており、市民の側は自分たちが指定管理者になるためにはどのようにアピールすればいいのかを探っている様子が見られました。

## 教養講座

# 「中世日本を彩った女性たち」



6月3日～24日に行った「中世日本を彩った女性たち」は受講希望者が殺到した教養講座でした。お話をくださった服藤早苗さん(埼玉学園大学人間学部教授)は女性史、家族史、子どもの歴史を中心に研究を続けている日本史の研究者です。なぜ、女性は男性をたててしまうのか、なぜ対等意識を持っていないのかを知るために歴史を学びなおしたというお話を中心に、1回目「紫式部と清少納言」の講義をまとめました。



### 歴史を学ぶ意味

私は男女平等を掲げた仕事をしたいと大学で学び、35年くらい前に小学校の教師になりました。当時、教師の5割くらいは女性でしたが、校長や教頭は男性でした。女性が校長になると、新聞の一面トップになる時代でした。学年主任は1年から6年まですべて男性、40代、50代のベテランの女性がいても、20代後半の男性が主任です。「すばらしい女の先生がいるのに、どうして男の先生ばかりを主任にするのですか」と聞きに行きました。すると、校長と教頭は「僕たちも主任になってほしいと願います。けれど、女の先生がそういう責任のある仕事をいやがってついてくれない」と言われました。

いろいろ聞いてみると、それが実態でした。同じようなことをいくつも体験して、男女平等のためには、社会の構造を変えることも必要ですが、それだけではなく、女性自身が自分の意識を変えていかなければいけないと思いました。対等に給料をもらっているのだから、対等に責任を持つ。対等に仕事を分担する。どうしてこんなに素晴らしい女の先生たちがみんな、なんとなく男性をたててしまうのか。1年生の担任になったとき、お母さんから「なんだ！女の先生か…」と言われました。男をたてながら、実は女性自身が対等意識をどこかで放棄している。質を見極めて、あの先生は優秀だから、この先生はいやだと思うのならいいのですが、女性だからというのはおかしい。こういうふうに男性をたててしまうのはどうしてだろう。どういう歴史の中でこうなってしまったのだろうと思い、勉強しなおすために、大学に入りなおしました。

1960年代からヨーロッパでは人間の心性や日常生活をトータルに歴史で見ていく学問として社会史が広がりました。日本でも70年代後半から日本史研究に広がっていきます。大学に戻った時は、丁度、歴史の中で家族史、女性史が大学のアカデミズムの中できちんと研究してもいいと認識され始める時期でした。

私は古代から中世にかけての変容、女性が大きく変わっていく、その時代を研究したいと思っていました。ところが女性史は大学でする学問ではないと言われました。実は眉の描き方、靴や洋服、ズボンなどを歴史的に研究していくと、女性が

置かれた社会的な位置が見事に現れてきます。それまでは日常的なものが女性の社会的な変容にマッチしているといった、社会との構造を指摘する研究はありませんでした。



### 男女の社会的地位の変容

70年代前半までは85%の人が専業主婦になりました。性役割分担が強調された時代でしたから、女性はまず主婦になり、少し手が離れたら働く。今、女性は大学を卒業したら働いて当然。労働や財産、家族関係は大きく変わりました。ところが、全然変わっていないのが男女の性愛関係です。世界の先進国でこれくらい性産業が発展している国はありません。夫が買春してきても、妻があまり怒らないのは先進国では日本だけだと言われています。いわゆる商売ではない人と恋愛して、セックスをしてきたら、ものすごくいきりたつ妻が買春だったら、そんなに怒らない。なぜか。妻の立場が全然変わらないから。こういうのは男女平等ではないと思います。このような性愛関係の不平等がどうしてできたのか。実は買春や強姦が生まれたのは平安時代です。男女の社会的地位が大きく変容するのが平安時代です。

中世は11世紀末からと言われています。11世紀は王朝国家、古代と中世の移行期です。中世の芽生えは10世紀。歴史の中で見たときに、「中世日本を彩った女性たち」は、どういう位置づけができるのかという観点から考えます。



### 清少納言と紫式部

清少納言と紫式部は同じ階層の、全く同じ時代の人です。2人もとも正式な名前がわかっていません。当時、男性は貴族でも庶民でも、元服すると必ず大人の名前をつけました。女性は公的に朝廷に出仕したり、貴族の家に公的な意味で仕える時のみ、名前をつけられました。源氏物語は世界中で翻訳されていて、フランスの百科事典では、前近代の長編小説で一番すばらしいと取り上げられています。にもかかわらず、名前はわかりません。

女性は親・兄弟や夫の役職で呼ばれました。清少納言は清原元輔(きよはらのもとすけ)が父親で、役職が少納言でした。紫式部は父親が藤原為時(ふじわらのためとき)で、役職は式部の丞でしたので、最初は藤式部と呼ばれました。ところが出仕したのちに、源氏物語がベストセラーになります。主人公の紫の上にちなんで、紫式部と言われるようになったのではないかとされています。

当時の貴族は五位以上をいいますが、清少納言と紫式部は下層の受領階級、文人貴族の出です。今でいうと、学校や大学の先生のような、学問を修め、教える家系です。男も女も



小さい時から父親から学んでいたと思われれます。名前と同様に誕生日もわかっていません。平安時代の女性たちで年齢

がわかるのは、天皇の后と子どもたちだけです。男性に比べて、女性の資料は少なく不正確です。

清少納言は16歳頃に橘則光(のりみつ)と結婚しました。当時、16歳くらいで結婚するのは当たり前と思われがちですが、そうでもありません。紫式部は29歳です。清少納言は10年位で結婚を解消、28歳くらいで一条天皇の中宮・定子へ出仕したのではないかとされています。女房勤めをしながら、見聞きしたことを書いたのが枕草子です。枕草子を読むと、大変明るくて、非常にしっかりとした人というイメージがあります。

藤原道隆の娘・定子は一条天皇が元服した時、后になります。定子は大変明るくて社交的だったようです。3人の子どもを産みますが、1000年に亡くなります。前年の999年には藤原道長の娘・彰子が12歳で入内します。

紫式部は道長の娘・彰子のところに仕えました。彰子は本当に賢い人で、沈着冷静。おもんばかりがあるような女性です。紫式部もどちらかという、そういう人であったのではないかと思います。日記には怪しいくらい賢かったので、お父さんが男だったらよかったのにと嘆いたと書いています。内省的というか、引っ込み思案で、紫式部日記と枕草子を読み比べると、よくわかります。



### 女性がつくった日本文化

8世紀の奈良時代は男女対等に近くて、大臣の妻であっても、女性は女官勤めをしていました。9世紀になって、父から

息子へ地位を譲るようなシステムに変え、男性が自分の確実な子どもに政治的な自分の地位を継承させるような社会にしていきます。

女性は出仕すると、幅3mくらいある渡り廊下の一角に房という部屋をもらいます。自分の妻が女房出仕をして、1週間か10日くらい帰ってこない。すると、生まれた子どもが誰の子どもか判らなると困ります。上層階級から妻は女房出仕をしなくなります。妻は家で間違いなく夫の子どもを産むという、夫が安心するシステムができてきます。

正式な妻が女房として出仕しなくなると、女房勤めをしている女性たちに対して、労働に対する卑賤観ができてきます。労働するのは卑しい、恥ずかしいという感情です。もともと貴族層は顔を見せてはいけな、声を聞かせてもいけないという意識があります。女房勤めは顔を見せなくてはいけない。枕草子には「家にいて、夫のわずかな出世をいいなと思って我慢しているよりも、朝廷に行き見聞を広めるのがいい、どうして女房勤めの悪口を言うの」と書いています。

女房出仕をしないで、きちんとした地位のある妻として、家で夫を支えながら、子どもの養育を監視する、そういう妻になりたいという女性の願望が現れている社会になっていることが、ここから読み取れます。

清少納言も紫式部もともに漢籍にすぐれ、自分の才能をきちんとアピールし、日本語の文章に大きく寄与しました。枕草紙は随筆、源氏物語は一つの大きなストーリー、しかも内面を掘り下げて書く長編小説という、全く新しいジャンルです。この二人の女性がいたおかげで、漢字を入れて上から下に読む、わかりやすい日本語の文章がつくられました。その前の靈異記はすべて漢字、上下逆に読む漢文でした。

日本の文化というとき、女性をあまり評価していませんが、文章も衣装も家具も、今の日本のルーツになる文化は女性がつくりあげました。女性の寄与、女性が深く関わっていたことが、これからジェンダー史や女性史を研究する中で評価されるようになっていくと思います。(まとめ 田中きょうこ)

### パネル展

## 色で豊かに！ 女性と色彩ビジネス

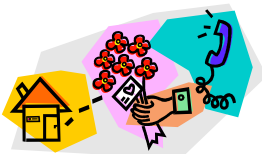


2004.10.15(金) ~ 11.10

(水) 9:00 ~ 21:00

1階展示コーナー

色にはメッセージ性や心理的な効果があります。快適な生活を演出するために、女性が展開する数々の「色彩ビジネス」を紹介します。



### 集中講座

## プラス思考トレーニング



11月27日(土) 13:00 ~ 17:00

11月28日(日) 10:00 ~ 16:00

自分も相手も大切にするプラス思考のコミュニケーション術を学びます。

講師: 牛島のり子(アサーティブトレーナー)

費用: 6050円(テキスト含) 募集: 抽選で25名

申込締切: 11月17日。往復葉書又は e-mail

(esenaota@yahoo.co.jp)で。セミナー名 氏

名 住所 電話・FAX 番号 年齢 を明記

し、区民自主運営委員会(住所は4面記載)へ

# いやしの アート&ダンスセラピー

他者を尊重するには、まず初めに、ありのままの自分を肯定することから始まります。アートやダンスを楽しみながら、素直に自分を表現することで、自分自身を深く知ることができ、更には、他者を尊重することができるようになります。

募集：30名(応募者多数の場合は抽選)  
受講料：2500円(材料費)

保育：1歳以上未就学児10名まで。

保育料ひとり1500円

申込：往復葉書(10月31日必着)または

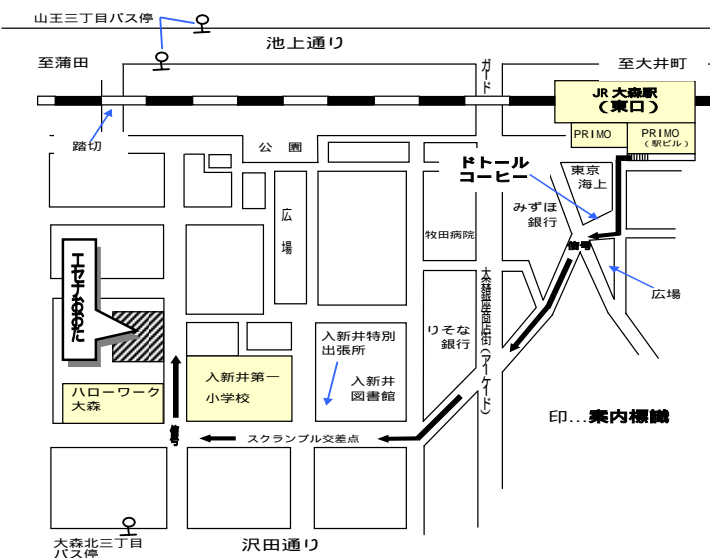
e-mail(esenaota@yahoo.co.jp)で、

区民自主運営委員会(下記参照)へ。

セミナー名 氏名 住所 電話・FAX 番号

年齢 保育希望(名前・年齢)を記入。

	日時	内容	講師
1	11/7(日) 10:30~12:30	スライムカラーセラピー 楽しくスライムを作り、色を通して自分自身と対話します。リラックスした雰囲気の中で他の参加者とスライムを交換し、色のカクテルを作ります。	檜森秀子 (江東区立第七砂町小学校教諭)
2	11/21(日) 10:30~12:30	こころとからだをリフレッシュしよう ~ 踊って癒すダンスセラピー ~ 簡単なゲームをしたり、みんなで一緒に遊んだり、疲れたこころとからだを癒し、リフレッシュします。	照屋 洋 (日本ダンスセラピー協会理事)
3	12/5(日) 10:30~12:30	こころとからだをリフレッシュしよう 年齢・性別に関係なく、一緒にからだを動かします。簡単なゲームや遊びから豊かな人間関係づくりを体験します。	
4	12/12(日) 10:30~12:30	アロマキャンドルづくり 色を楽しみながらアロマキャンドルを作ります。誰とどんな場所で何を話したいのか、イメージしながら最後にキャンドルに火を灯します。	檜森秀子 (江東区立第七砂町小学校教諭)
5	12/19(日) 10:30~12:30	私のライフマップづくり 自分の「今まで」と「これから」の人生のイメージを地図で表現します。安心できる空間で過去を振り返り、さらに未来に思いを馳せてみます。	



大田区立男女平等推進センター  
エセナおおた  
区民自主運営委員会  
〒143-0016  
東京都大田区大森北 4-16-4  
電話 03-3766-6587  
03-3766-4586  
FAX 03-5764-0604  
e-mail esenaota@yahoo.co.jp  
HP URL <http://www.escenaota.jp/>